

日本教育大学協会第3回全国国立大学附属学校研究協議会を開催

第3回全国国立大学附属学校研究協議会を12月18日（日）、千代田区一ツ橋の学術総合センター一橋記念講堂で開催し、全国から約280名が参加した。

この研究協議会は、「国立大学附属学校の新たな活用方策等に関する検討とりまとめ」（平成21年3月26日文部科学省高等教育局大学振興課長通知）が示す課題を踏まえたこの1年間の取り組みを振り返るとともに、第二期中期目標・中期計画に基づく各附属学校園の取り組みについて情報交換し、国立大学附属学校園のこれからの役割・意義、在り方について考えることを目的とした。

はじめに村松泰子日本教育大学協会長（東京学芸大学長）から、「大学をめぐる情勢として、財務当局等から大変厳しい視線を浴びている。教員養成系大学・学部がその教育実習等々を含め、本当に役割を果たしているのかという問題意識が非常にある。厳しい情勢の中で、大学・附属学校園とも税金を使って運営していくためには、我々がこうした状況について十分理解したうえで、大学と附属の関係の在り方を含め、充実した取組をしていくことが必要だろう。」と述べた。続いて、金本正武日本教育大学協会附属学校委員会委員長（千葉大学教育学部教授・附属小学校長）から本協議会の趣旨説明等があった。

第一部（実践発表と協議）では、「新たな活用方策～とりまとめ～」で示された課題に基づき、①「大学との連携・地域との連携を基盤においた研究や取組」として、大阪教育大学附属平野中学校、福島大学附属中学校、静岡大学教育学部附属浜松小学校から、②「教員養成への協力の在り方に関して実績をあげている取組」として、島根大学教育学部から実践事例の発表があり協議が行われた。

第二部（基調講演及び附属学校委員会提案、全体協議）では、はじめに今井裕一文部科学省高等教育局大学振興課教員養成企画室長の基調講演「国立大学法人附属学校園の役割・意義及び課題について」が行われ、①附属学校園の現状、②我が国で求められる人材育成の方向性、③我が国の教員養成の現状と課題、④今後の教員養成の在り方に関する検討状況について報告があり、「様々な現状や課題がある中で、質の高い教育実習の場をどのように教員養成と連携していくか。附属学校自体の教育機能の強化をどう図るのか。また、地域の公立学校の拠点となるという意味ではいかなるやり方があるのか。今でも取り組んでいる例があるかと思うが、さらに深め、充実していくことをお願いしたい。その際には大学内だけの議論ではなく、地元の教育委員会若しくは学校現場の声をしっかりと聞いたうえで取り組んでいただくことが肝要である。」と述べた。

続いて、附属学校委員会提案「いま、何が問題なのか～現状と課題～」を行った後、今井裕一教員養成企画室長、近藤和雄全国国立大学附属学校連盟理事長、野澤博行愛知教育大学教授、山崎幸一東京学芸大学附属大泉小学校副校長が登壇し、金本委員長がコーディネータを務め全体協議が行われた。全体協議では①教育研究における連携、②教員養成への協力、③新たな活用方策の模索、という論点で話題を進めた。最後に金本委員長が「①国が求める人材を育成できる附属学校を作っていくためには、我々が意識を変えていくことが必要。②このことを実現するためには、大学改革と連動して行わなければ実現しない。本当の意味の大学との連携、そしてそれを支えている教育委員会や地域との連携の在り方をもう一度見直す必要がある。」とまとめた。



村松教大協会長



金本附属学校委員長



今井教員養成企画室長



全体協議を熱心に聞き入る参加者



全体協議で活発な議論を展開する左から近藤全附連理事長，金本委員長，今井教員養成企画室長，山崎学芸大附属大泉小学校副校長，野澤愛教大教授（学術総合センター一橋記念講堂）